

みなさんは、子どものために一生懸命、
応援したり尽くしたりしています。
子どものためを思う、
子どもによかれと思う、
強い気持ち、
大きなエネルギー。
それが子どものためにより良いものとなるように、
ちよっと振り返ってみましょう。



Navi.1 サッカーは子どもを大人にし、 大人を紳士にする

——デトマール・クラマー

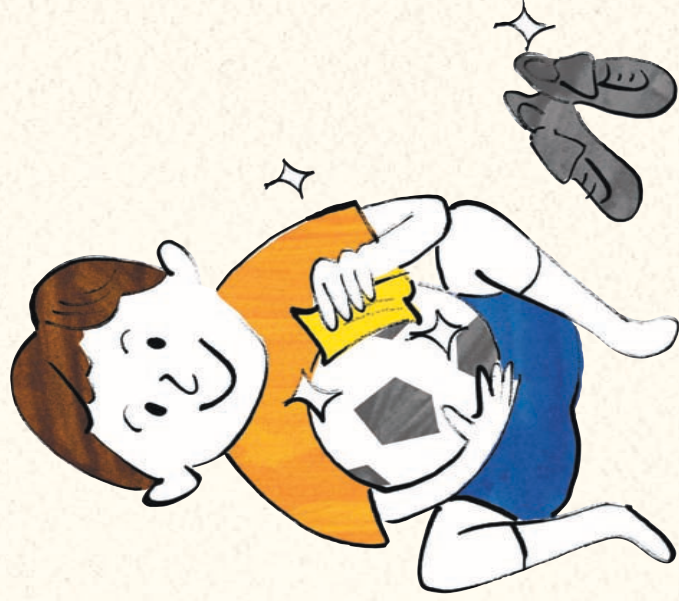


デトマール・クラマー
60年に東京五輪をめざす日本代表に特別コーチとして招かれ、メキシコ五輪の銅メダル獲得に貢献。日本リーグの発足、指導者養成等にも尽力し“日本サッカーの父”と呼ばれ、数々の名言を残す。その後世界で活躍。現在もFFA巡回コーチとして活躍中。2005年日本サッカー殿堂に樹額される。

Navi.1
サッカーは子どもを大人にし、
大人を紳士にする

自立の第一歩

子どもなりに、自分で必要だと思うことを
自分でやることが大事。



サッカーの試合に行くと、よく見かける光景があります。

試合場でのチームの場所取り、飲み物も着替えも、何から何まで親が準備。子どもはただ単に用意されたものを飲み、言われるままに着替えるだけです。いつも必ずそろっているから、「ありがたい」とさえ言わない選手もいます。

お手伝いいただくのはたいへんありがたいことです。でも多くは子どもたち自身で十分に行えること。あるいは、子どもたち自身が、したほうが良い、する必要があるとわかることです。むしろ、子どもなりに、必要なことは自分で必要だと思っ、自分でやるということこそ大事。

足りなかったり不便だったりしたら、自分で考えて、工夫したり相談したりで何とかする。そして次にはそうならないようにすることが大切です。

私たちは、サッカーでは自立が大切であると考え、自立した選手を育成しようとしています。自立しているというのは、自分自身で判断して、責任をもって行動する、ということです。

誰かにやれと言われたから、ではなく、自分自身がやりたい、やったほうが良い

と思うからやる。

失敗も自分の判断によるもの。誰かのせいにはできません。

また、何から何まで大人がそろえてくれる環境に子どもたちが「あって当然」と思うことは間違いです。

用意してもらえない環境では何もできない、適応できない子どもにもなってしまうでしょう。

何から何まで常に用意されている環境を与えることがマイナスとなることもあるのです。

サッカーの合宿に集合したときに、スパイクシューズを忘れてきてしまった子がいました。その子に聞くと、いつも自分ではなく母親が用意をしているので自分のせいではない、とのこと。親が電話をしてきて、届けに来ると言います。「運動靴でやらせるから結構です。」とお断りしました。3日間の合宿で、その子はすべりやすくてやりにくそうにはしていましたが、運動靴で最後まで練習をしました。その後、その子は決して忘れ物をしないようになりました。お母さんによると、それ以来、必ず自分自身で用意をするようになったとのことでした。

Navi.1
サッカーは子どもを大人にし、
大人を紳士にする

クラブへ協力

子どものサポートであることを忘れずに



一般的に、少年団やクラブの活動には、みなさんの協力が不可欠です。

みなさんの一生懸命な応援や献身的な協力のお気持ちはいへんありがたいがたく、子どもたちにも励ましになります。

練習の送り迎え、また、特に遠征や試合等では、年齢が低いほど、引率やお世話の必要が生じます。

実際、そういった協力がなくしては運営が成り立たないクラブもあります。

何から何まで、やれる限り何でも、ではなく、クラブの考え、指導方針と合うようにしましょう。クラブとよく相談して、求められていることを確認しましょう。

いちばん重要なのは「子どもたちの成長にいちばんいいこと」をすることです。みなさんのやりがいや満足、あるいは大人同士のつながりを保つためではないのです。

本当はクラブに積極的にかかわりたいと思っても、いろいろな事情でできないばかりに、いたたまれず子どもにクラブをやめさせてしまうのも、残念なことです。子どもが犠牲になるようなことがあっては本来願いです。

あくまで子どもの活動のサポートであることを忘れずに、大人同士で考え、話し合い、カバーし合っていくことが大切です。

ただし、無関心はこどもにとって非常にさびしいことです。

忙しい、余裕がない、といった事情はあるかもしれませんが、気にかけて、関心を持ち、機会をつかまえてそれを表現するには、いろいろな方法がある

と思います。できるやり方からやってみてはいかがでしょうか。気にかけてもらっていることは、子どもにとって喜び、励み、勇気になります。

